

$S_2 \approx 0.25 \text{ cal} \cdot \text{min}^{-1} \cdot \text{cm}^{-2}$ とすると、 $\Delta R_1 = 0.075 \text{ cal} \cdot \text{cm}^{-2} \cdot \text{min}^{-1}$ 、次に例えば太陽高度が低く 20° 位だと $(1 - \frac{b}{a}) \approx 0.10$ 、 $1 - \frac{c}{a} \approx 0.3$ 、 $S_1 = 0.40$ 、 $S_2 = 0.20$ 位とした場合には $\Delta R_1 \approx 0.100 \text{ cal} / \text{min} \cdot \text{cm}^2$ となる。

以上 Beckman-Hemi. radiometer を用いて昼間の大気輻射量を求める一つの方法について述べた。Net flux radiometer については下からの日射の反射光も加わるが、これについても b/a 、……等に相当する係数を上の方法で求めておけばよいと思う。

尚上にのべてきた b/a 、 c/a の値を出す前に現在使用

している輻射計の常数 k の値が、果してどの程度正しいものであるかを、どうしても一度調べる必要があるように思われる。そのために筆者は簡単な大気輻射計検定装置を試作した。(詳細は農業気象17巻1号に発表) 使用した。Hemi radiometer は輸入したから5年近くたっており、その機械製作番号は MDL 188-33. Ser 154 となつている。日射計は農試電試型日射計を使用した。

最後にこの研究にご協力下さった物理第2研究室長井上栄一博士に感謝するものである。

理 事 会 便 り (II)

第19回 常任理事会議事録

日 時 昭和36年9月8日(金) 17.00~19.00

場 所 神田学士会館

出席者 岸保, 根本, 有住, 吉武, 松本, 畠山, 正野
神山, 淵 各理事(順序不同)

決 議

1. 大会におけるシンポジウムとして「台風に関するもの」と「大気海洋間エネルギー交換に関するもの」(日本海洋学会と共催)を開く。
2. 大会で北川信一郎氏に帰朝談をお願いする。

3. 日中学術交流に関し国際学術交流委員会として正式に文書を出し、日中友好協会を依頼する。
4. 天気の本1号を梅雨を主としたものとし、原稿を1月末締切で募集する。編集には交流委員会が協力する。
5. 気象学会のマークを12月31日締切で募集し、せんこう方式については常任理事会において決定する。

第20回 常任理事会議事録

日 時 昭和36年10月2日(月) 16.30~21.00

場 所 神田学士会館

出席者 正野, 桜庭, 松本, 根本, 藤田, 今井, 有住
神山, 淵の各理事(順序不同)

決 議

1. ソ米の原爆実験再開に関し、どのような処置をとるかについて慎重審議したが、まとまった結論に達しなかったので、秋季大会で常任理事会としては臨時総会を開かないことにする。
なおこの問題についてさらに検討する。
2. 秋季大会の行事日程を次のとおりとする。
大 会(研究発表) 両会場
11月7日 9~12, 13~15時
岡田賞授賞式(渡辺貫太郎氏) 第1会場
受賞記念講演 11月7日 15~16時
帰 朝 談(北川信一郎氏) 第1会場

11月7日 16~17時

懇 親 会 家の光会館

11月7日 18時~

大 会(研究発表) 両会場

11月8日 9~12時

台風シンポジウム 第1会場

11月8日 13~17時

大 会(研究発表) 両会場

11月9日 9~12, 13~17時

大気海洋間エネルギー交換シンポジウム 国際文化会館

11月9日 18~21時

3. 大会の各座長については講演企画委員会の原案通りお願いする。
4. 朝日賞に関しては、10月7日までに推せん者を正野理事長まで申出の上、同理事長と畠山理事で推せん者を決定する。